

おとなの「時間」と子どもの「時間」

先日、大谷大学教授で臨床発達心理士の佐賀枝夏文先生のお話を伺う機会がありましたのでその内容を踏まえて書かせていただきます。

わたしたち、おとなと子どもにはそれぞれの、「おとなの時間」、「子どもの時間」があります。この時間には「時計の時間」を意味するものと、「時間感覚」を意味するものの2つがあります。

おとなは、「時計の時間」で考え、行動しています。「時計の時間」を、親や保育者はおとなの時間としています。親や保育者は、生活しているので、社会のルールや園のスケジュールで活動しなければいけません。おとなは、「時計の時間」の中にいて、世の中は、「時計の時間」で動いているのです。気にもとめない「時計の時間」ですが、感覚として長くも短くも感じるものです。

反対に、子どもの「時間」は、おとなの時間とは同じではありません。子どもたちは、おとなのような時間をもたないと思います。「時計の時間」の中で生きているおとなと、「時間感覚」の中で生きている子どもの違いと考えて下さい。

おとなは「時計の時間」の中で生活しています。仕事や約束などルールは、共通する「時間」があって成り立っています。おとなは「時計の時間」で子どもたちと接しています。「良し悪し」は別にしても、子どもは、この「時計の時間」がありません。このことで「ズレ」や「衝突」が起きることがよくあります。例えば、おとなは「早くしなさい」「遅い」となり、子どもは「まだ」「もう少し」の言い分となります。

しかし、次第に子どもたちも、おとなの時間を理解し、身に付けていきます。ここで考えたいのは、おとなの「時計の時間」は、社会生活をしていくには必要なことです。しかし、多くのおとなは過去・現在・明日という時間の流れで考え、そのなかで、窮屈に「自分を縛り」、「時間が舞い」、「もっと時間が欲しい」と暮らしているのです。

そして「いま」を実感して、「時間間隔」の中で生きている子どもにこそ、我々おとなは子どもに接するヒントがあるのではないかと思います。

このおとなと子どもの「時間の違い」を意識してお子さんと触れ合ってみてはいかがでしょうか。きっと違ったお子さんの気持ちが見えてくる事と思います。

理事長